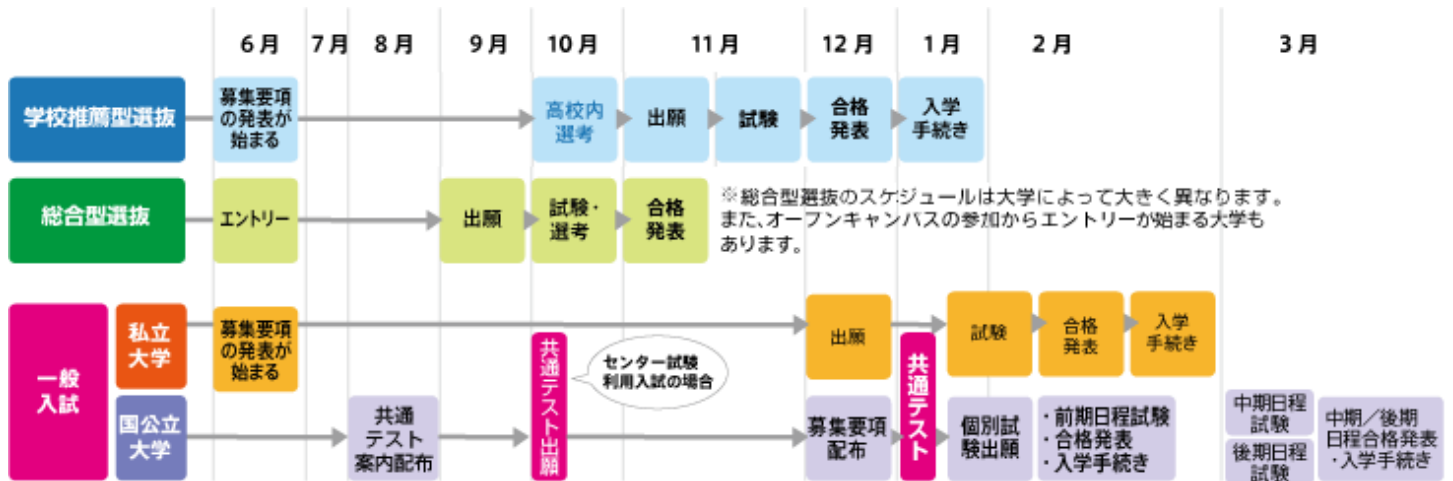


大学受験制度について

以前、入試制度が「学力の3要素」を見る制度に変わった、という話をしました。
今回は今の入試制度がどうなっているのかを見ていきたいと思います。

大学入試カレンダー



(出典 「大学進学情報 逆引き大辞典」 (<https://www.gyakubiki.net/>))

現行の大学入試制度では大きく3つの選抜方法があります。大学入試カレンダーを見てください。上から「**学校推薦型選抜**」「**総合型選抜**」「**一般入試**」の三つです。

「**学校推薦型選抜**」と「**総合型選抜**」は基本的に**併願不可**です(例外もあります)。合格した場合、必ずその学校に進学することになります。ですから**出願するのは「自分の第一志望の学校」**にしてください。自信がないからとか、早めに進路を決めたいからと志望を落として、面談等で志望校に挙げたことがない学校を出願することのないようにしてくださいね。**合格した後で「やっぱり〇〇にします」といってもできません。**

「**学校推薦型選抜**」も「**総合型選抜**」も**受験生の「この大学で学びたい!」という熱意を大きく見る入試**です。準備は念入りに!

総合型選抜

大学が公表しているアドミッションポリシー(入学者受け入れ方針)にそって入学者の意欲を問う入試です。**受験生自身が書く志望理由書や学修計画書、受験生が自分の口で志望動機を語る面接などが重視されます。**つまり、教科の学力はもちろん、教科以外の力も必要とされるので、早いうちに「自分は何をやりたいのか」「なぜこの学校でなければならないのか」をしっかりと考えるようにしましょう。

また、**必ず何らかの形で学力を問う入試**になっています。小論文やグループディスカッションといった形で学力を問う大学の場合、そのための**準備も必要となるため、受験生の負担は大きくなります。****4、5年生は総合型選抜を目指すなら、「総合的な探究の時間」や「授業」を利用して積極的に「発表力」や「自己表現力」を鍛えておく**といいでしょう。

総合型選抜では9月1日以降に出願となっています。合格発表は11月以降です。共通テストを課す総合型選抜は共通テスト後に合格発表です。もし不合格の場合は一般入試まで時間がないため、**総合型選抜の受験中でも、最後まで受験勉強を継続**することが求められます。

準備は大変ですが、第1志望が揺るがない人はここからチャレンジすることも考えておきましょう。

学校推薦型選抜

出願は11月以降です。出願者を校長名で推薦する入試なので、校内で慎重に審議したうえでの出願となります。9月に校内で希望を募り、その後、校内選抜をしますので、総合型選抜同様、早めに意思を固めてください。

学校推薦型選抜についても、共通テストや小論文などで必ず学力を問われます。また、総合型選抜同様、志望理由書や学修計画書、小論文、面接なども重視されるので、こちらの準備も必要となります。

学校推薦型選抜は特定の高校に受験枠を与える「指定校推薦」と条件を満たせば出願できる「公募制推薦」があります。国立大学には指定校推薦はありません。

公募制の推薦の多くは志願倍率も高く、不合格者も数多く出ます。指定校推薦も定員を超えて志願者がいる場合や、学力が足りないと判定された場合は不合格となります。合格発表は12月以降です。不合格の場合、一般入試まで時間がないので、総合型選抜同様、学校推薦型選抜の受験中でも最後まで受験勉強を継続することが求められます。

「校長名で推薦する」ということは、つまり学校を代表して受験ということです。それに見合う成績、生活態度が求められます。「全体の学習成績の状況（3年間の成績の5段階評定をすべて足し、教科数で割った数値）」が受験校の出願基準を満たしているか、出席状況が良好か、課外活動や総合的な探究の時間への取り組みが良好かなど、様々な視点から校内で検討します。時には残念ながら推薦できないと判断されることもあります。

また、大学合格後も大学側から成績や生活態度が追跡調査され、良好でないと思われる場合は次年度以降、指定校が取り消されるなど、後輩に悪影響が出ることがあります。学校推薦型選抜を利用したいと考えている4年生、5年生は今のうちから学校の成績、出欠席、提出状況など、学業面・生活面で気を引き締めていきましょう。

総合型選抜同様、準備は大変ですが、やはり第1志望を目指す人は選択肢の一つとして考えてみてください。

総合型・学校推薦型をどう使うか

新しい入試制度の方向性は「学力の3要素を問う」ものと明記されているので、一般入試でも「思考力・判断力」や「学びに向かう力、人間性等」が何らかの形で問われるようになります。ですから総合型選抜、学校推薦型選抜を目指して自分の表現力を高めたり、志望動機の明確化をしたりすることは一般入試にも生きてきます。また、総合型・学校推薦型の定員の枠もどんどん広がっているので、今後はおそらく、入試方式として無視できないものとなるでしょう。

もちろん、準備が必要な入試であることは間違いないので、入試を間近に控えた6年生は担任、保護者と十分に相談したうえで慎重に考えてください。同時に、リスクがあることも忘れないようにしましょう。

4年生、5年生については早めに意識を持って準備を始めてください。決して楽な入試方式とは言えませんが、やりたいことをしっかり持っている受験生には大きなチャンスでもあります。

6年ゼロ学期は5年次の夏休み以降

センター試験の時代、進学校では「高校2年の3学期は3年ゼロ学期」という言葉がよくつかわれていました。センター試験の1年前だから、というのがその理由ですが、国公立大学の総合型選抜+学校推薦型選抜の定員が全体の合格者の定員の30%近くを占める現在では、総合型選抜の出願の準備を始める5年の夏休み明けが実質上の6年ゼロ学期と言えます。早めに進路への意識を持ちましょう！

5年生はもうすぐ6年ゼロ学期、という緊張感をもって取り組んでください。4年生はまだまだ先、と思うかもしれませんが、後期の3年間は思った以上に「あつという間」です。早めに自分の志望を考えて、それに向けていろいろ調べてほしいと思います。まずはオープンキャンパスや大学説明会を利用してみましょう。すでに始まっている大学もありますが、夏休みには多くの大学で実施が予定されるので今から情報を集めておきましょう。また、3階の階段上がったところの掲示板にたくさん案内を掲示してあります。ときどき、足を止めて見てみませんか？